【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】平成22年11月11日(2010.11.11)

【公開番号】特開2006-295161(P2006-295161A)
【公開日】平成18年10月26日(2006.10.26)
【年通号数】公開・登録公報2006-042
【出願番号】特願2006-102872(P2006-102872)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｌ　21/027　(2006.01)
Ｇ０３Ｆ　7/20　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｌ　21/30　５１５Ｄ
Ｇ０３Ｆ　7/20　５２１

【誤訳訂正書】
【提出日】平成22年9月15日(2010.9.15)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３３】
図６はシール部材１２の概略的な断面図である。前述の５つの要素のそれぞれが、必ずしもシール部材の周縁全体を囲んで存在している必要はない。これは特に、浸漬液入口１２４、および液体出口または抽出装置（すなわち障壁２２０／孔のアレイ２２４）を有する場合である。図７ａに見られるように、これらがシール部材１２の局所的な内側周縁の周りのみに、望ましくは互いに向かい合って提供されると有利になることがある。図から分かるように、液体入口１２４と液体出口は、基板Ｗから異なる距離のところにある。液体入口１２４および／または液体出口の長さの適切な比率は、シール部材１２の内側周縁の１／２未満、望ましくは１／３未満である。液体入口１２４および／または液体出口の長さは、望ましくはシール部材１２の内側周縁の１／２０より大きく、より望ましくは１／１５または１／１０より大きい。これは、入口１２４から投影システムＰＳと基板の間の空間１１を横切って（すなわち交差流れ）ターゲット部分ＴＰを通過し（放射線ビームは、このターゲット部分ＴＰを通過して基板に結像する）、孔のアレイ２２４を介して空間の外へと出る乱れのない浸漬液の層流の生成を助ける。シール部材１２の入口１２４の反対側に液体抽出ユニット１８０を設けることによって、空間１１を横切る浸漬液の流れを促すこともできるが、必ずしもそうする必要はない。あるいは、周縁全体を囲むように抽出ユニット１８０を配置し、場合によっては、それに対して入口１２４の反対方向により大きい抽出圧力を加えるようにしてもよい。図７ｂは、３つの液体出口または抽出装置２２４をバリア部材１２の内側周縁の周りに設けた他の実施例を示している。３つの出口は約１２０°離れて配置され、最も大きい出口が液体入口１２４の向かい側に配置され、他の２つの出口はそれよりも小さく、入口１２４の両側に配置されている。